

令和7年5月9日

豊橋市教育委員会 様

所在地 愛知県安城市御幸本町7番9号
名 称 愛知ネット・豊橋市シルバー人材セン
ター共同体
代 表 天野 竹行

令和6年度 豊橋市青少年センター事業報告（提出）

見出しのことについて、別紙のとおり提出します。

令和6年度

豊橋市青少年センター事業報告書

指定管理者

愛知ネット・豊橋市シルバー人材センター共同体

はじめに

愛知ネットが当センターの管理運営に携わって丸 14 年、シルバー人材センターと共同して取り組んで 4 年が経過した。今年度は指定管理 4 期目の初年度にあたり、過去の実績を基盤に、安心安全な環境づくり、より利用しやすい施設運営、魅力的な講座イベントの企画、積極的な情報発信等に努め、市民に愛される社会教育施設を目指し、新たな 1 歩を踏み出した。もちろん、当センターの本来の設置趣旨である「青少年の健全育成」に努め、社会の変化や若者のニーズなどに配慮しながら主催事業を実施し、青少年団体の活動を支援してきた。

I. 令和 6 年度の目標

1. 魅力的な自主事業の実施

→利用者ニーズに即した事業を企画し、発信や応募方法を工夫する。

→新たな視点での取組みをし、シルバー人材を有効に活用する。

2. 新たな利用者の開拓

→近隣大学で直接に学生にセンターの活動の紹介や参加を呼び掛ける。

→スペシャルウィークスで様々な展示・イベントを実施し、存在を P R する。

3. 青少年健全育成の推進

→青少年団体の活動を紹介したり、発表したりする場を設定する。

→青少年団体の連絡会を開催し、情報交換や確認事項を共有する。

<数値目標>

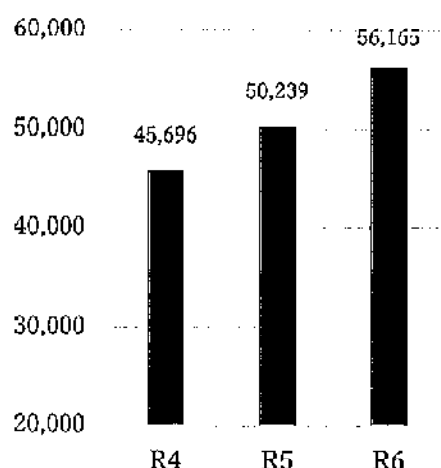
- | | |
|------------|-------------------------------|
| 1. 利用者数 | 52,000 人 (2023 年度実績 50,239 人) |
| 2. 講座等参加者数 | 2,100 人 (2023 年度実績 1,911 人) |

II. 令和 6 年度の実績

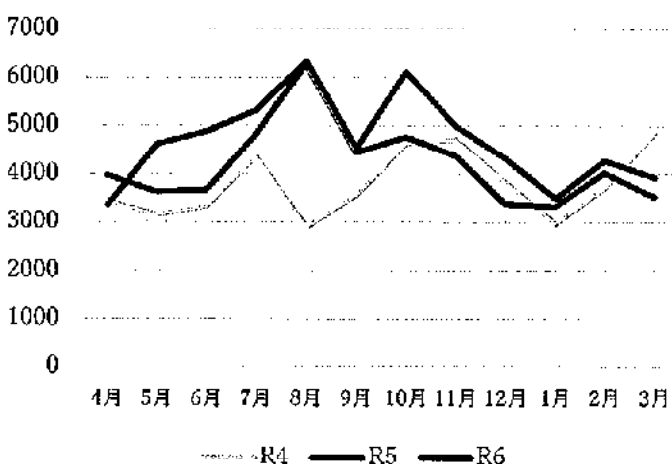
1. 施設利用者数

	R4 年度	R5 年度	R6 年度				
	実績	実績	目標	実績	達成率	他施設使用	合計
利用者数	45,696 人	50,239 人	52,000 人	56,165 人	108%	2,642 人	58,807 人

グラフ 1 年間利用者数の推移



グラフ 2 月別利用者数 (過去3年間)



令和6年度の利用者数は56,165人で、達成率は目標の52,000人の108%であった。

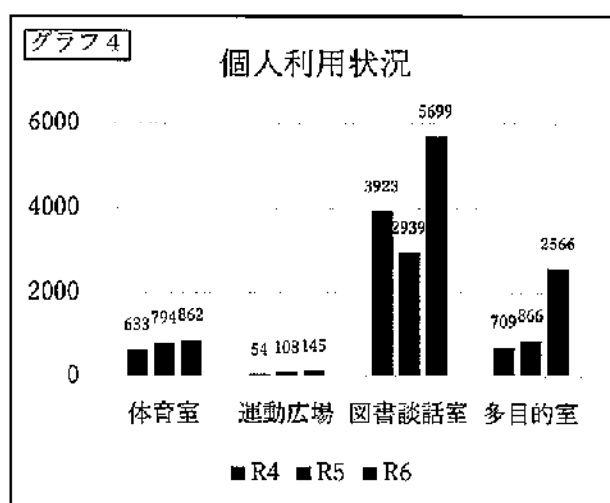
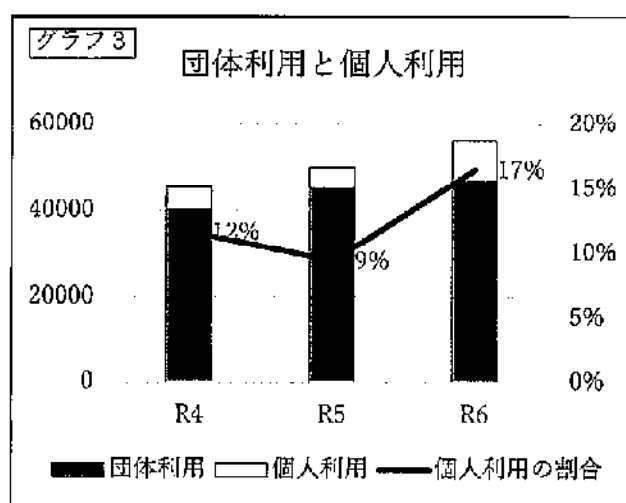
当初令和6年度の目標は、令和4年度実績45,696人を踏まえて48,000人とした。しかし、令和5年度の確定値が50,239人となったので、目標を52,000人に上方修正した。

グラフ1から、年々利用者数が増えていることが分かる。コロナの影響を最も受けた令和2年度の27,259人と比べると利用者は2倍近くになり、コロナ前よりも増えている。

グラフ2から、前年と比べて5, 6, 10月の利用者が多かった。猛暑の夏ではあったが、例年を上回る利用があった。

年間を通して利用者増の傾向にあるのは、利用者への「丁寧な対応」や「わかりやすい説明」などの接遇の向上を常に職員が意識して実行していることも一因であると思われる。

2. 団体利用と個人利用



団体利用、個人利用とも増加した。特に個人利用に特徴的な変化があった。

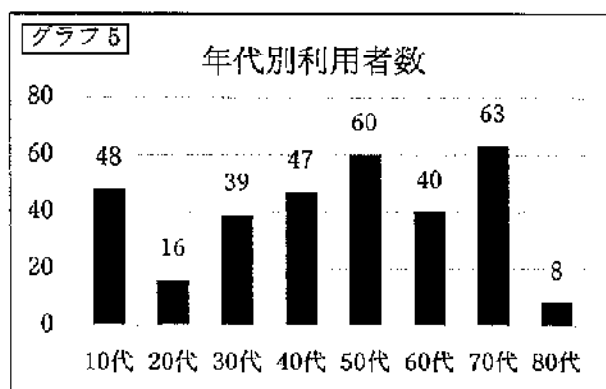
グラフ3から、利用全体に対する個人利用の割合が大きくなっていることが分かる。

さらにグラフ4から、図書談話室、多目的室の利用が大きく増加していることが分かる。特に多目的室は例年の3倍近くの利用があった。これは「パパママレポーター」等のSNSでの情報拡散によって多目的室の存在を知り、初めて訪れる人が目立った。

これからも団体利用だけではなく、気軽に個人で利用できる青少年センターも目指していきたい。今秋には市内の中学校の部活動がなくなるので、中学生など若い世代がもっと利用できるような方策を考えていく必要がある。例えば音楽室の個人利用など。

3. 年齢別利用状況

令和6年9月に1カ月間実施した利用者アンケート（回答330人）の結果から、「利用者年齢」は20代を除いて10代から70代までほぼ同じ割合で利用していることが分かる。特に10代の利用が例年より多くなっている。これは、調査期間中の図書談話室のご利用が多かったことによるものである。グラフ5



4. 施設別利用状況

	中央棟	研修棟	宿泊棟	運動広場	合計
R6	36,269 人	11,748 人	438 人	7,710 人	56,165 人
R5	32,156 人	11,888 人	197 人	5,998 人	50,239 人
R4	32,047 人	9,723 人	193 人	3,733 人	45,696 人

昨年度と比べて研修棟の利用が若干減少したが、中央棟が1割増、運動広場が3割増となった。さらに宿泊棟については県外からの利用もあり、2倍以上の利用となった。

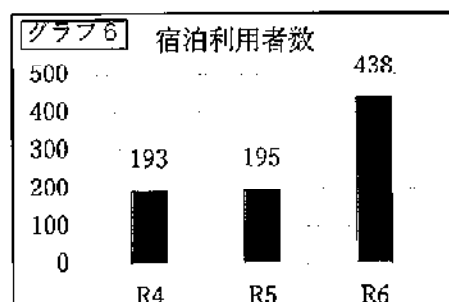
5. 宿泊利用

宿泊利用がとて多く、団体数は例年の1.7倍、利用者数は2倍以上となった。**グラフ6**

コロナ禍の影響が薄れ、宿泊を伴う活動も活発になっている。

宿泊団体数		
R4	R5	R6
9	10	17

ほとんどが市内の団体であったが、名古屋、岐阜、横浜からの利用もあった。インターネットの普及と、利用料金が格段に安いことが遠方からの利用の要因となっているようである。



6. 講座等参加者数

令和6年度の講座等の参加者は延べ1,920人であり、前年度とほぼ同じ状況であった。目標2,100人に対する達成率は91.4%であった。**グラフ7**

達成率が伸びなかったとして考えられる主な原因は次の3点である。

(1) 応募者数が大きく定員割れした講座があった

- ・U30 ヒップホップダンス 27% プリザーブドフラワーアレンジ 30% 母の日ラッピング 40% オカリナ 47% 節分のつどい 50%

➡応募の少ない講座は継続について検討の必要がある。

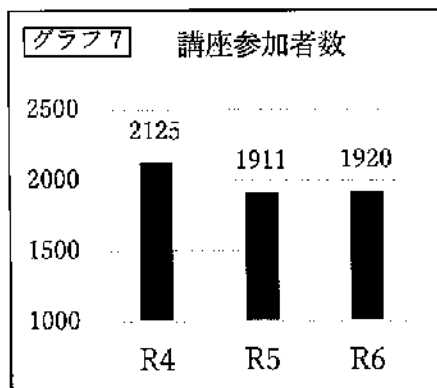
(2) 参加率が低い講座があった

- ・ヨガ冬 73% ヒップホップダンス 77% 走り方教室（短距離）71%、走り方教室（長距離）77% バドミントン 67%

➡人気のある講座であってもインフルエンザの流行で体調を崩して欠席したり、こども向けの講座が学校行事と重なって出られなかったりした。

(3) レクリエーション・インストラクター養成講座の参加が少なかった

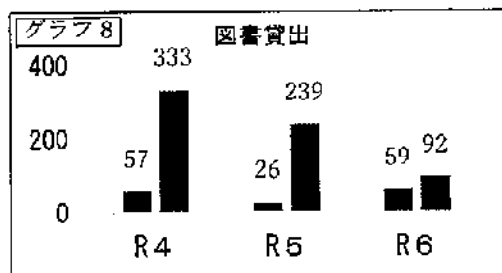
昨年度の参加者が延289名であったが今年度は102名であった。2～3名しか参加しない日も多い。指導者の高齢化も進んでおり、継続していくのはかなり難しい状況である。



7. 図書利用状況

図書貸出	中学生以下		大人	
	人	冊	人	冊
R6	23	59	34	92
R5	21	26	65	239
R4	19	57	95	333

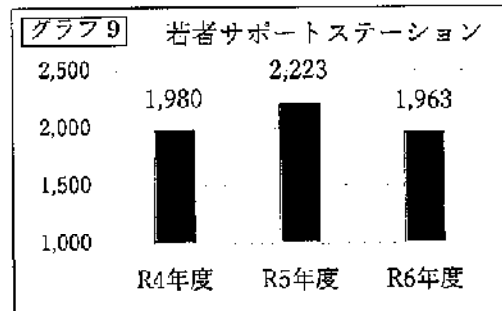
中学生以下の貸し出しは若干増えたが、大人は減少傾向。



III. 関連団体施設利用者数

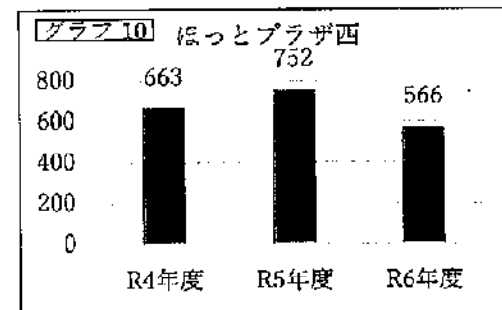
1 若者サポートステーション

若者サポートステーション 年間利用者数			
	R4 年度	R5 年度	R6 年度
利用者数	1,980 人	2,223 人	1,963 人
前年度比	93.7%	112.3%	88.3%



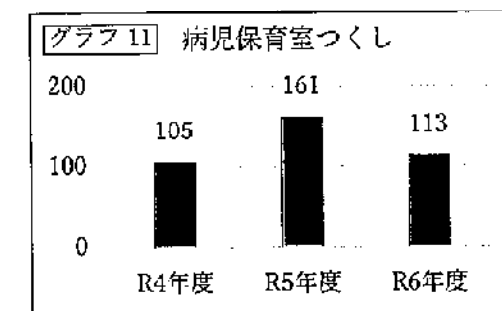
2 ほっとプラザ西

ほっとプラザ西 年間利用者数			
	R4 年度	R5 年度	R6 年度
利用者数	663 人	752 人	566 人
前年度比	50.8%	113.4%	75.2%



3 病児保育室つくし

病児保育室つくし 年間利用者数			
	R4 年度	R5 年度	R6 年度
利用者数	105 人	161 人	113 人
前年度比		153.3%	70.1%



IV 収支状況

R6 年度収支状況

単位：千円

期	収入	支出	差額
第1 四半期	10,697	10,446	251
第2 四半期	10,518	10,480	38
第3 四半期	10,526	10,217	309
第4 四半期	10,487	9,911	576
公租公課		1,174	-1,174
合計	42,228	42,228	0

電気料金、燃料代をはじめ物価の高騰が経営を圧迫しているが、利用者へのサービスを低下させることなく、経費の節減に努めた。具体的には消耗品等の無駄を極力なくし、軽微な修繕はできる限り職員作業によって対応した。また、業者への依頼も内容をよく精査して交渉したり、業者を吟味したりすることによって支出を抑えた。

V まとめ

1. 成果

(1) 利用者数の伸び

年間利用者は 56,165 人で目標の 52,000 人を大きく上回ったばかりではなく、愛知ネットが 2011 年度に指定管理を担ってからの 14 年間で最も多い利用者となった。大幅な利用増が実現した主な要因は以下の 3 点が考えられる。

① 職員の接遇向上

職員と利用者のつながりが強くなってきたことを実感する。職員は積極的に「こんにちは」、「ありがとうございます」、「またご利用ください」等の挨拶や、「今度試合はいつありますか」、「しばらく顔を見ませんでしたね」等の声掛けをするよう日頃から心掛けてきた。地道に繰り返すうちに利用者から、「こんにちは」、「ありがとうございます」と声をかけてくれるようになった。初めは年配のグループの方が中心であったが、最近では図書談話室を利用する中高生も挨拶をしてくれるようになった。職員が接遇を意識することによって、利用者とのつながりが強くなり、その結果リピーターが増えていると考えられる。

② 積極的な情報発信

情報紙、館内の掲示物の工夫、ブログ、ホームページ等の小まめな更新に加えて、玄関ロビーに 2 種類の PR 動画（近日中に行われる講座と、年間のイベント）を常時流して来館者が関心を持つよう努めた。

また、今年度は多目的室の利用が飛躍的に伸びた。大きな一つの要因は、豊橋市こども未来部が行っている SNS「パパママレポーター」による情報の拡散である。若い世代への情報発信は SNS がとても効果的であることを改めて実感した。センターとしても SNS の更なる活用を工夫していきたい。

③ 心地よい施設の維持

築 50 年近く経過する建物ではあるが、少しでも気持ちよく使っていただけるように努めている。毎日の清掃はシルバー人材センターに委託している。3 人交替で行っているが、職員から常に声掛けやねぎらいをすることによってコミュニケーションをとれ、丁寧な作業に結びついているように思う。

④ 図書談話室の利用

図書談話室の利用も増えた。利用の内訳は「読書」よりも圧倒的に中高生の「学習」が多い。これまでも学校の定期テストの時期は利用が多かったが、今年度はそれ以外の時期も勉強に来る中高生が多くいた。ほとんどが熱心に学習に取り組んでいるが、中には友達としゃべったり、騒がしくする利用者もいる。室名が「図書談話室」なので、ある程度のおしゃべりは仕方ないが、他に迷惑になるような行動は自制するように注意している。その結果、学習しやすい環境が整ってきている。また、スマホを使つての調べものをしやすいため、Wi-Fi 環境を整備したことも利用が増えた要因の一つと考えている。

(2) 利用者の評価

令和 6 年 9 月に利用者アンケートを行い 330 人から回答をいただいた。「自由記述」では 217 件の意見をいただくことができた。お褒めの言葉も多くいただいたが、それ以上に施設面などの要望が多く寄せられた。貴重な意見を大切にして今後の運営に活かしていきたい。

① 施設の使い勝手

「施設の使い勝手はどうでしたか」という問いに対して「大変良い：27%」、「良い：66%」で、肯定的な回答が94%であった。築50年ほど経つ古い建物ではあるが、使い勝手は良いと評価された方が多いのはとてもありがたいことである。一方、自由記述では、エレベーターの設置、洋式トイレへの改修、体育室のエアコンの設置を望む意見が多くみられた。

② 職員の対応

「職員の対応はどうですか」の問いに対しては、「大変良い：43%」、「良い：57%」で、肯定的な回答が100%であった。もちろんお世辞もあるだろうが、日頃からの声掛けや接遇の積み重ねの結果とありがたく感じた。これからも「あいさつ」、「声掛け」、「適切な応対」を常に心がけ、さらに安心して利用できる施設にしていきたい。

③ 利用する理由

「青少年センターを利用する理由は何ですか（複数回答可）」に対しては、「駐車場がある：25%」、「使いやすい：20%」、「近い：19%」、「料金が手頃：19%」、「夜10時まで開館している：7%」、「その他：9%」となっていた。利用する理由は様々であることがわかった。その一つ一つが当施設の強みでと考える。これらの強みを広く情報発信し、さらに多くの方に利用していただけるようにしていきたい。

2. 課題

(1) 厳しい予算執行

指定管理料が減額、物価・光熱費の高騰、最低賃金の上昇によって、施設経営は大変苦しいものとなった。例えば営繕費を当初予算では80万円計上しているが、社用車の車検費用として約10万円と窓ガラス補修費の25,000円を執行したのみで、残りは手を付けず、他の必要経費に充てた。故障などは職員で補修をしたり、危険が無く利用者にあまり不便をかけない箇所については貼り紙をしてそのままにしたりしている。

(2) 高齢化の進行

職員の高齢化は着実に進んでいるが、それ以外にも高齢化による課題が顕在化してきている。青少年センターでは市直営の頃より「ユース・レクリエーションリーダー派遣事業」を実施している。市内の子ども会や児童クラブのイベントにレクリエーターを派遣して、お楽しみ会などを行う事業であるが、リーダーの平均年齢が70歳近くになり今後の存続が懸念される。「レクリエーション・インストラクター養成講座」の講師も同じような状況である。若者の価値観の変化、女性の就労割合が高くなっている状況では、新たな人材育成や掘り起しが大変難しくなっている。

3 次年度に向けて

(1) 主催事業の見直し

当センターでは「バラエティーに富んだ講座を低料金で誰でも参加しやすく」をモットーとしてきた。おかげで年間約2,000人の方が参加し、公共の社会教育施設としての役割を果たしてきた。しかしその一方、講座を開催するほどに収支はマイナスとなっている。給料アップが今の社会の流れの中で講師料を下げることは難しい。次年度の講座計画を立てる上で、以下の3つの観点で精査した。

ア 講座の回数を減らす…青年講座ジャズダンスなど

イ 参加料を上げる…大人 1 回あたり 200 円を 300 円とする

ウ 費用が掛かる講座をやめる…青年講座バドミントンなど

指定管理の申請時に約束したことを守りつつ、市民のニーズや青少年センターの役割を見極めて魅力ある講座を開催していく。

(2) 愛知ネットらしさを活かす

防災・災害支援の団体として、愛知ネットらしさをこれまで以上に打ち出していく。今年度までは「防災体験講座」を年に 1 回実施していたが、来年度はそれ以外に夏休みに「親子で学防災」、冬には「これから始める防災」を実施する予定である。より多くの市民が防災意識を高め、必要な知識やスキルを身につけると同時に、職員ひとりひとりの防災についてのスキルアップを図り、地域連携を深める機会としていきたい。